

セイ浸透

一理性と本能の共存一

Keywords

性 生
高架下 猥雑 ちょんの間



AK16038 菊池亜美

1. はじめに

現在の街並みを見ると本来都市にあるはずの裏側、猥雑さやいかかわしさなどの本質的なものが拭い去られ、通俗的なものになりつつある。そのことにより「猥雑＝よくないもの」「性＝タブー」化が加速する。果たしてこのままでいいのだろうか。

2. 研究背景

2.1 性の後退国 日本

日本は性の後退国といっても過言ではない。欧州では性教育に積極的に取り組んでいるが、日本では授業で「性」を取り上げることが問題視するなど、世界の流れとは真逆にむかっている。「セックス＝恥ずべきもの、隠すべきもの、何が正解で何が不正解なのか、考えても分からない」という無意識にすりこまれた先入観を多くの若者は抱いている。

2.2 現状

2015年に実施された出生動向基本調査によると、性体験がない人の割合は、20-24歳で男女とも約47%、さらに、性に関心をもたない人は、20代前半で男性21%、女性39%と2008年に比べて大幅に上昇している。

また日本性教育協会による「青少年の性行動全国調査」によると、青少年の性行動の不活化化が年々進行し、特に女子でその傾向が著しいことが明らかとなった。また性行動における性差も拡大している。おそらくその背景には、性愛をめぐるコミュニケーションの問題が横たわっており、5歳児頃にあるべき教育が飛ばされたまま、恥の概念だけは脈々と受け継がれてきた結果とは言えないだろうか。

年齢・性別	2008年	2015年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
男子	21.1	21.1	21.1	21.1	21.1	21.1	21.1	21.1	21.1
女子	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0
合計	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1

図1 主要な性行動経験率

2.3 性の先進国 オランダ

オランダは幼少期からセクシュアリティ教育が開始されることから、不本意な性行為を避けることができおり、10代の望まない妊娠も少ない。また、学校だけではなく、家庭環境もオランダの子供たちの性教育にとって重要で、家族間での性に対してオープンな態度が子供たちに安心感を与えているといわれている。

3. 研究目的

性に対して下品にひけらかすという意味での“オープン”ではなく、必要な時にきちんと恥の概念なく話せることを意味する“オープン”を目指し、浸透すべく、この設計を考える。

4. 敷地

4.1 対象敷地

住所：神奈川県横浜市中区黄金町
京浜急行黄金町駅と日ノ出町駅の間に位置し、南には大岡川が流れている。川と高架に挟まれた場、高架下、高架と高層マンションに挟まれた場を敷地対象地とする。

敷地面積：7500㎡

建蔽率：80%

容積率：400%

用途地域：商業地域

高度地域：第7種高度地域



図2 敷地航空写真

4.2 対象敷地分析

現在、黄金町はアートによる安全・安心のまちづくりが進められている。地域・アーティスト・企業・行政・

警察・大学などが一体で取り組む「黄金町バザール」や、毎月オープンスタジオというイベントを通じて、日常的にぎわいの創出と地域・アーティストの交流の促進を図っている。しかしこのエリアは、かつては非法売春地帯であったという歴史を抱えており、売買春等を行う違法な小規模店舗（以下ちょんの間）が空き家となつて点在しているという問題点がみられる。



写真1 現在の高架下

4.3 ちょんの間分析

ちょんの間とは元赤線・青線で営業している性的なサービスをする風俗店のことで、料亭として営業していた。内部構成としては、。1階にカウンターで客を勧誘し、急階段を登り、2階がサービスを施すとなっている。

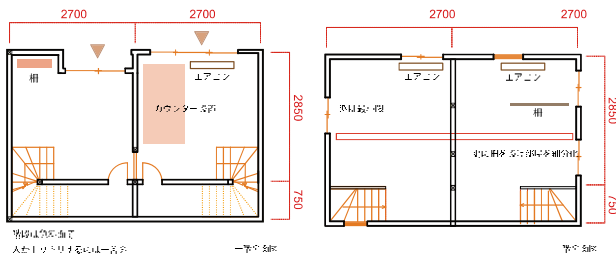


図2 ちょんの間 図面

ちょんの間は、外観として大きく二つのタイプに分けられる。間口1間程度で2-3畳の広さしかない狭小空間が特徴のバラック建築とタイル張りや円柱の豆タイルの枠、アールデコ調の装飾が特徴的なカフェー建築である。



図3 バラック建築 (左) カフェー建築 (右)

5. 設計趣旨

ちょんの間を排除し通俗的かつゴーストタウンに変わり果ててしまった黄金町。すべてを消し去るのではなく過去を継承し、性欲を超越した欲を満たす場（本能）と Learning Center(理性)が共存する場を目指す。

5.1 設計手法

性に対してオープンでありながら、浸透化させるために、人々の意識改革するきっかけとなる建築を計画する。かつてちょんの間が高架下から高架沿いに溢れ出したように、性がにじみ浸透する様子を空間化して設計していく。またちょんの間を構成していた要素を抽出し、誘発し得る形に置き換える。

5.2 プログラム

・ Learning Center

3-6歳、6-12歳、12-15歳、15歳以上と利用対象年齢を分けた構成となっている。幼児に、性行為自体を直接的にフォーカスして教えるのではなく、自分と他者との境界線をはっきりさせながら、コミュニケーションや交渉のスキルを小さいうちから練習させる。

年齢問わず、きちんと性教育を学べば、性に関わる事がどれだけ大切なことなのかがわかり、「性＝タブー視」の概念がなくなっていく。

・ 誘発空間

負のイメージのあるちょんの間。それらは人間の本能によって形成された。払拭するのではなく、狭小空間をグリッド化し、過去の記憶を残す。利用形態を想定するゾーンとして空間を分割し形を決めるのではなく、予測不可能な行為や出来事を誘発し得る形とする。

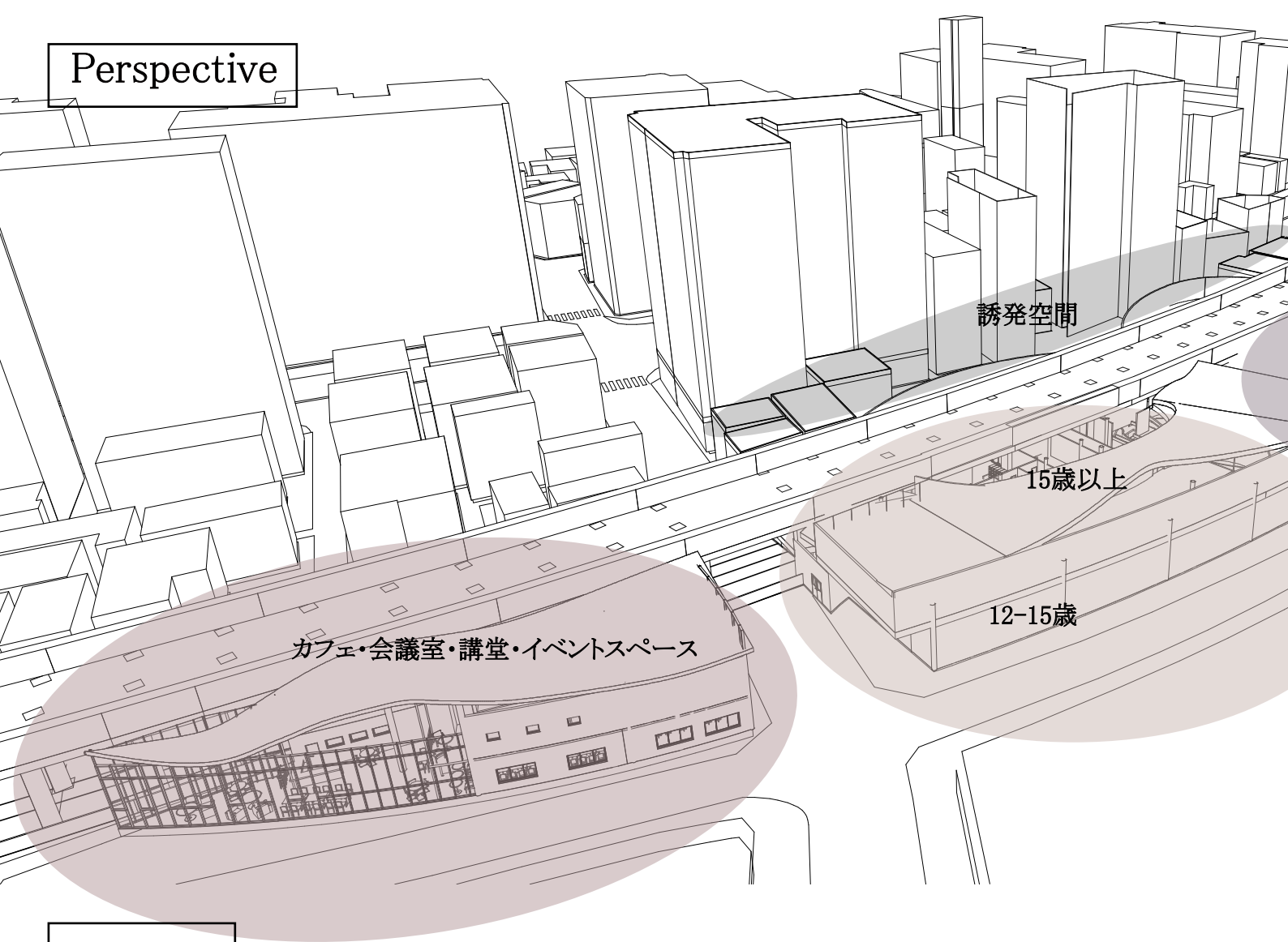
6. 展望

性とどう向き合っていくのかを真剣に考え、オープンに話していける社会に変わっていくべきであり、建築的な切り口で現代の性問題の解決につながることを願う。

参考文献

- 1) 日本性教育協会
<https://www.jase.faje.or.jp/>
- 2) 黄金町エリアマネジメント
<http://www.koganecho.net/>
- 3) 新建築 2012年11月号
遊び場のデザイン アービット・ベンソン著

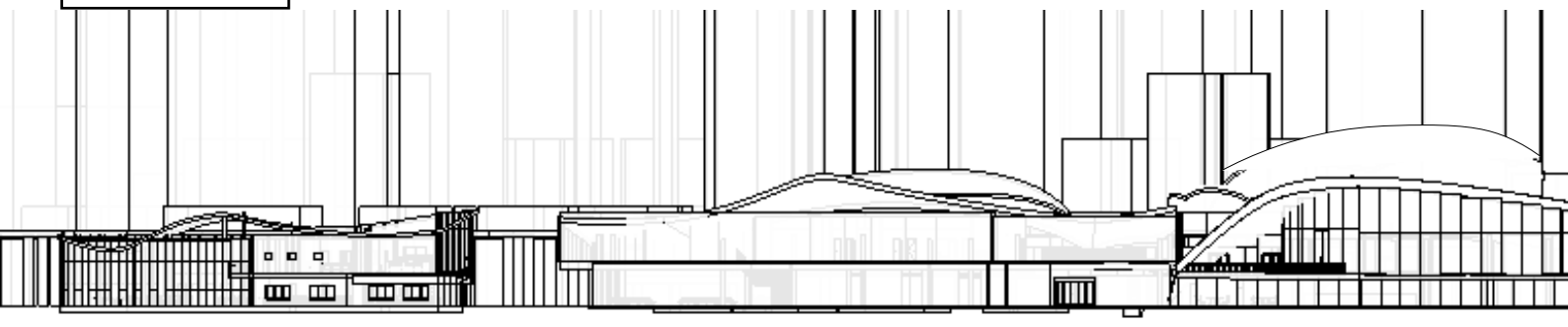
Perspective



Plan 1F



Section



Sexual Learning Center

-3-6歳

自分と他者との境界線をはっきりさせながら、コミュニケーションスキルを高める場
性の話は日常のルールの延長線上にあり、日常に起こるプロセスを踏んで伝えることで、
「性が特別なことではない」ことを自然と理解させる。

3歳-6歳

-6-12歳

自分のこと、体のことを感覚体験を通して知ってもらう場
体の名前や構造、多様性、恋する気持ちなどを学ぶとともに身体感覚空間や
瞑想空間を設け、見る、聞く、触れる、嗅ぐなどの五感を意識させる。

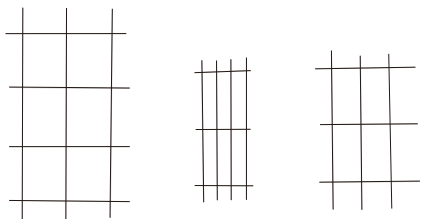
-12-15歳

精子や卵子、妊娠・出産、セックス、自慰行為などオーガズムについて学べる
ムービーを通して性教育を行う。性行為は感情と深いつながりがあることも伝える。

-15歳以上

性教育を行うだけでなく、不妊や生殖補助、医療、
実際黄金町にもあった売春の歴史展示、ポルノムービーの放映、相談所を設ける。

Tyon no ma Park



2700×3600 900×3600 1800×3600

ちよんの間空間グリッドと内部構成物が表出し、
予測不可能な行為や出来事を誘発させる



バタバタしたい



リクライしたい



イヤイヤしたい



ゴロゴロしたい



ヨミたい



マツリしたい



フカしたい

Perspective Inside

